

九州大学病院

研修医師 小野 雄介 2013年7月

九州大学病院初期研修医2年目の小野 雄介です。

今回、初期研修プログラムの地域医療として、7月の1ヶ月間を出水総合医療センターで研修させていただきました。

出水市に到着したときは、一面に広がる畑や山々にまずは圧倒されました。もともと、私は北九州市出身で大学時代も含め、福岡県から離れて生活したことがないので、出水での生活を始めて身近に広がる自然や生き物に日々感動したことを懐かしく思い出すことができます。そのような環境の中であって、出水総合医療センターは地域の中核を担う医療機関です。

医療センター内での先端医療から各診療所を通した往診まで広大な医療圏を担当し、対象年齢は子供から高齢者まで幅広い年齢層をカバーしています。この病院での1ヶ月の研修は本当に充実したものでした。

まず、院内研修では消化器内科と外科を研修させていただきました。消化器内科では内視鏡検査を、外科では手術症例を中心に研修しましたが、その間に外来診療や処置も経験することができました。私自身は曜日によって研修する診療科が決まっていましたが、どちらも消化器疾患を扱っており、科の垣根を越えて協議を行い、どのような治療が最善なのかを話し合う光景をよく目にしました。

院外研修では野田診療所、上場診療所、高尾野診療所、大川内診療所、出水保健センターでの母子相談など、地域と密着した医療を経験し、特に、往診は健康管理という点で、最も地域に根ざした医療だと感じました。しかし同時に、地域医療の難しさも感じました。私の所属する大学病院は、先端医療を担当するという特性上、ヒト・モノ共に豊富な医療資源がありますが、それが当たり前ではないということをこの1ヶ月で学びました。

患者、病院、地域のそれぞれの状況を考え、限られた医療資源で治療を行うことや患者さんのQOLを支えることの難しさを実感しました。これは、大学病院や都市の病院では感じ取れないことだと思います。

このような状況の中で、熱意を持ち診療されている先生方には本当に感動しました。同時に、コメディカルやスタッフの方々、地域の開業医の先生方の協力もあり、出水総合医療センターや各診療所の高い医療レベルが維持されているのだと実感でき、医療連携の大切さを改めて考えさせられました。

最後になりましたが、宗清先生、嵯山先生、花田先生をはじめとしてご指導をいただいた先生方、コメディカル、スタッフの方々にお礼を申し上げます。この1ヶ月で感じたこと、学んだことをこれからの医師人生に活かしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。